

平成 26 年 8 月 12 日  
和歌山地方気象台

平成 26 年 8 月 9 日に和歌山県東牟婁郡串本町及び新宮市で発生した  
突風について

(気象庁機動調査班 [JMA-MOT] による現地調査速報)

8 月 9 日 3 時 40 分頃に串本町大島地区で、4 時 00 分頃に串本町鬮野川（くじのかわ）地区で、5 時 30 分頃に新宮市三輪崎地区で突風が発生し、串本町では軽量の船舶の損壊や公共施設のひさしの飛散などの被害が、また新宮市では屋根瓦のめくれや樹木の幹折れなどの被害が発生しました。

このため 11 日と 12 日、和歌山地方気象台は、気象庁機動調査班（JMA-MOT）を派遣し、突風現象の現地調査を実施しました。

結果は以下のとおりです。

## 1 串本町大島地区

### (1) 突風をもたらした現象の種類

この突風をもたらした現象の種類は特定できませんでした。

(根拠)

- ① 被害や痕跡の分布からは、突風現象の種類を推定できる情報が得られなかった。
- ② 聞き取り調査からも、目撃情報や突風現象の種類を推定に有用な情報を得られなかった。

### (2) 強さ（藤田スケール）

この突風の強さは藤田スケールで F0 と推定しました。

(根拠)

- ① 港に係留中の軽量の船舶が数十メートル吹き飛ばされた。

## 2 串本町鬮野川地区

### (1) 突風をもたらした現象の種類

この突風をもたらした現象の種類は特定できませんでした。

(根拠)

- ① 被害や痕跡の分布からは、突風現象の種類を推定できる情報が得られなかった。
- ② 聞き取り調査からも、目撃情報や突風現象の種類を推定に有用な情報を得られなかった。

### (2) 強さ（藤田スケール）

この突風の強さは藤田スケールで F0 と推定しました。

(根拠)

- ① 公共施設のひさしの一部が飛散した。

### 3 新宮市三輪崎地区

#### (1) 突風をもたらした現象の種類

この突風をもたらした現象は、竜巻の可能性のあるものの、特定には至りませんでした。

#### (竜巻の可能性を示す根拠)

- ① 被害はほぼ帯状に分布していた。
- ② 強い風が短時間であったとの証言が複数あった。

#### (特定に至らなかった理由)

目撃情報や耳鳴り等の体感情報は得られなかった。

#### (2) 強さ (藤田スケール)

この突風の強さは藤田スケールで F0 と推定しました。

#### (根拠)

- ① 住家の屋根瓦のめくれが複数あり、一部飛散があった。
- ② 弱い樹木の幹折れがあった。

\* この資料は、速報として取り急ぎまとめたもので、後日内容の一部訂正や追加をすることがあります。

本件の問い合わせ先  
和歌山地方気象台  
電話 073-422-5348

## 参考 突風の分類

### (1) 竜巻

積雲や積乱雲に伴って発生する鉛直軸を持つ激しい渦巻きで、漏斗状または柱状の雲を伴うことがある。地上では、収束性で回転性の突風や気圧降下が観測され、被害域は帯状・線状となることが多い。

### (2) ダウンバースト

積雲や積乱雲から生じる強い下降気流で、地面に衝突し周囲に吹き出す突風である。地上では、発散性の突風やしばしば強雨・雹を伴い露点温度の下降を伴うことがある。被害域は円または楕円状となることが多い。周囲への吹き出しが 4km 未満のものをマイクロバースト、4km 以上のものをマクロバーストとも呼ぶ。

### (3) ガストフロント

積雲や積乱雲から吹き出した冷気の先端と周囲の空気との境界で、しばしば突風を伴う。降水域から前線状に広がるが多く、数 10km あるいはそれ以上離れた地点まで進行する場合がある。地上では、突風と風向の急変、気温の急下降と気圧の急上昇が観測される。

### (4) 塵旋風

晴れた日の昼間に地上付近で発生する鉛直軸を持つ強い渦巻きで、突風により巻き上げられた砂塵を伴う。竜巻と違い積雲や積乱雲に伴わず、地上付近の熱せられた空気の上昇によって発生する。

### (5) 漏斗雲

竜巻と同様の現象だが、渦は地上または海上に達しておらず、地表付近で突風は生じない。

### (6) その他の突風

自然風は絶えず強くなったり弱くなったり変化しており、その中で一時的に強く吹く風をいう。また、これ以外にガストフロントの中で発生する旋風などもある。

## 参考 F スケール (藤田スケール)

竜巻やダウンバーストなどの風速を、構造物などの被害調査から簡便に推定するために、シカゴ大学の藤田哲也により 1971 年に考案された風速のスケール (日本気象学会編、1992) です。

### 藤田スケールと被害との対応

F0	17~32m/s (約 15 秒間の平均)	煙突やテレビのアンテナが壊れる。小枝が折れ、また根の浅い木が傾くことがある。非住家が壊れるかもしれない。
F1	33~49 m/s (約 10 秒間の平均)	屋根瓦が飛び、ガラス窓は割れる。またビニールハウスの被害甚大。根の弱い木は倒れ、強い木の幹が折れたりする。走っている自動車が横風を受けると道から吹き落とされる。
F2	50~69 m/s (約 7 秒間の平均)	住家の屋根がはぎとられ、弱い非住家は倒壊する。大木が倒れたり、またねじ切られる。自動車が道から吹き飛ばされ、また汽車が脱線することがある。
F3	70~92 m/s (約 5 秒間の平均)	壁が押し倒され住家が倒壊する。非住家はバラバラになって飛散し、鉄骨づくりでもつぶれる。汽車は転覆し、自動車が持ち上げられて飛ばされる。森林の大木でも、大半は折れるか倒れるかし、また引き抜かれることもある。
F4	93~116 m/s (約 4 秒間の平均)	住家がバラバラになってあたりに飛散し、弱い非住家は跡形なく吹き飛ばされてしまう。鉄骨づくりでもペシャンコ。列車が吹き飛ばされ、自動車は何十メートルも空中飛行する。1t 以上もある物体が降ってきて、危険この上ない。
F5	117~142 m/s (約 3 秒間の平均)	住家は跡形もなく吹き飛ばされるし、立木の皮がはぎとられてしまったりする。自動車、列車などが持ち上げられて飛行し、とんでもないところまで飛ばされる。数トンもある物体がどこからともなく降ってくる。